

# 断捨離

伊 山 幸 雄

そもそも、パソコンを始めるきっかけは、中学、高校以来のアルバム整理を志したからであった。従って、10数年前からの懸案事項の一つでもあった。

パソコンをいじりだすと、そんな事はそっちのけで、各種メディアからの情報の取り込み、CD化、そのための周辺機器の整備等や、会の運営などに気を取られたりで、あっという間の15年であった。

アルバムはダンボール箱に収めて天袋にぎっしりなので、近頃流行りの「断捨離」の矢面になるのは当然である。正確には、L版、2L版にプリントしたものの他、ネガフィルム、ポジフィルム、8ミリフィルム等、かなり傷んだものも有りそうである。これらをデジタル化するには、かなりの労力が必要である。

加齢なるものは因果なもので、かつての情熱やら、意欲が次第に変化してくるものである。更にはデジタル化に対する意義にも疑問を抱き始めたのである。どうやら、怠けてきた事に対する正当性を探っているのかも知れない。

もう一つ気がかりな事がある。同年輩の仲間、同窓会の仲間などに、人生の終焉を迎える準備の一環としての「断捨離」の必要性、進捗具合などについて水を向けても、あまり乗って来ないのである。勘ぐるに、もうそんな事はとっくに済ん

でいるからか、無策ぶりを恥じて話題にしたくないからか。どうも後者とは思えない。遊びに没頭出来る連中の姿を見るに付け、焦りを禁じえないのである。

「断捨離」には順序があるそうである。まず第一に衣類から。次いで装飾品類、書籍類、最後に思い出の品々。私の場合、すべて手付かずである。思い出の品に属するアルバムは、最後の番なので、ひとまず息が継げる状態である。しかし、決して気を緩めて良い訳ではない。

今、思う事は、パソコンの中身も全く同じである。私は、人にファイルだのフォルダーなどと言える資格はない。どうも性格に負うところが大きい様で、几帳面な人は、言われなくても整然としているし、中途半端な人は努力しても中途半端に終わる筈である。私の場合は後者である。もうこの期に及んでジタバタしても仕方ない。やれる範囲でやるしかない。パソコンの中身も、身辺整理も。……そう言う心境である。基本的にはヨガの行法、「断行（だんぎょう）」、「捨行（しゃぎょう）」、「離行（りぎょう）」という考え方を応用して、人生や日常生活に不要なモノを断つ、また捨てることで、モノへの執着から解放され、身軽で快適な人生を手に入れようという考え方、生き方、処世術である。単なる「片づけ」や「整理整頓」とは一線を引くという。